

研究テーマ 自動車工業について多角的に捉える活動を通して、未来を考えさせる指導の工夫  
—第5学年「工業のさかんな地域」—

### 【提案】

教科書や資料を見ながら読み取ることがよくできるが、社会の学習を身近な生活と結びつけることが苦手な児童が多い実態がある。そこで、「生産者」「消費者」「社会全体」から多角的に自動車工業を捉えさせる授業を行い、3つの立場から社会を捉えることで、社会に参画しようとする児童の育成を行い、意欲を向上させるための指導の工夫を目指した。



【社会科見学で自動車の組み立てや、生産者の思いを学ぶ児童】

## 1 実践のポイント

### (1) 自動車工業について多角的に捉えさせる。

「品質の良い製品を効率的につくる」、「消費者のニーズに応える」という「生産者」、「消費者」の視点に加え、「社会に必要とされているものをつくる」という工業の役割も合わせて考えさせることで工業製品が私たちの生活にどのように関わっているかを、より深く考えられるようにする。環境技術については、最近では環境に優しい自動車を買いたいというニーズもあるが、「社会全体」に役立つ製品も必要とされていることに気づかせ、多角的に自動車工業を捉えさせたい。

### (2) 自動車工業の発展について自分の考えをまとめさせる。

本小単元のまとめの活動では、児童が車社会を自分事として捉え、自動車会社の社長になったつもりで「これからも世界で売れ続けられるような経営方針」を考える。完成したらグループで発表し合い、よりよい考えは積極的に取り入れさせていく。さらに、グループ間でも交流の場を設け、より多くの視点から自分の意見を多角的に捉えさせる。対話的な活動を通して、将来の車社会への希望と参画していく自覚をもたせる。

## 2 実践の位置付け

### (1) 小学校学習指導要領との関連

内容(3) 我が国の工業生産について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア(ア) 我が国では様々な工業生産が行われていることや、国土には工業の盛んな地域が広がっていること及び工業製品は国民生活の向上に重要な役割を果たしていることを理解すること。

(イ) 工業生産に関わる人々は、消費者の需要や社会の変化に対応し、優れた製品を生産するよう様々な工夫や努力をして、工業生産を支えていることを理解すること。

(ロ) 貿易や運輸は、原材料の確保や製品の販売などにおいて、工業生産を支える重要な役割を果たしていることを理解すること。

(ハ) 地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめること。

イ(イ) 工業の種類、工業の盛んな地域の分布、工業製品の改良などに着目して、工業生産の概要を捉え、工業生産が国民に果たす役割を考え、表現すること。

(イ) 製造の工程、工場相互の協力関係、優れた技術などに着目して、工業生産に関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現すること。

本小単元ではとりわけ、内容のア(イ)に関して取り扱うが、消費者のニーズや社会の変化に対応し、優れた製品をつくるための生産者の工夫や努力を中心に調べていく。製造の工程は授業時間に調べた後に、社会科見学で自動車工場に行き、実際に見せてもらう。

### (2) 実践のポイントの学習評価との関連

・効果的・効率的評価のための、適切な評価場面の設定と精選

子供をよりよく見取るために相互評価を実施したり、振り返りカードやワークシートを通して自己評価をさせたりするようにした。

・内容のまとまりを踏まえた小単元の単元計画

ただテストで得点できる「わかる」や、評価をするための授業ではなく、様々な視点から同じ社会的事象を捉えることで深く「わかる」ということをねらい、自動車を買う「消費者」、自動車をつくる「生産者」、一般化された「社会全体」の3つの視点から自動車工業を捉えていく。具体的には、消費者がどのような車を欲しているのか(ニーズ)、生産者は安心やデザイン、環境への配慮など様々なニーズに応えるためにどのような努力をしているのか、社会全体はどのような車を求めている、どのように自分たちの生活に関わっているかを、細かく分けて追究させていった。

### 3 実践の内容

#### (1) 小単元の目標と評価規準

わが国の工業生産について、製造の工程や工場相互の協力関係、優れた技術などに着目して調べ、優れた工業製品が効率よく生産されていることや、消費者や社会全体のニーズに応える製品が開発されていることについて考え、工業生産に関わる人々の工夫や努力が工業生産を支えていることを理解できるようにするとともに、これからも日本の工業生産が発展し続けていくにはどうすればよいかについて、「生産者」「消費者」「社会全体」など、複数の立場から多角的に選択・判断し、自分の考えを表現しようとする態度を養う。

| 知識・技能   | 思考・判断・表現   | 主体的に学習に取り組む態度   |
|---|--|---|
| ① 工業生産に関わる人々は、消費者の需要や社会の変化に対応し優れた製品を生産するよう様々な工夫や努力をして工業生産を支えることを理解している。<br>② 様々な資料で調べ、まとめている。 | ① 製造の工程、工場相互の協力関係、優れた技術などに着目して、工業生産に関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現している。 | ① わが国の工業生産について、主体的に問題解決しようとしたり、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとしたりしている。 |

#### (2) 指導計画と評価計画（9時間）

○内の数字は時間を表す。  
 < >内は評価の方法を表す。

※網掛けは評価したことを記録に残す場合

知：知識・技能    思：思考・判断・表現  
 態：主体的に学習に取り組む態度

|     | 学習活動・学習内容  | 評価の観点・内容・方法   | 資料   |
|-----|--|---|--|
| つかむ | ① 日本の自動車が世界で売れている理由を考え、学習問題をつくり、予想を立て、学習計画を立てる。<br><br>学習問題<br>自動車工場で働く人は、自動車をつくるために、どのような工夫をしているのだろう。       | <b>思①</b> 日本の自動車が世界で売れている理由を考え、学習問題をつくり、予想を立て、学習計画を立てる。<br><br>〈ノート・発言〉           | <ul style="list-style-type: none"> <li>日本の自動車生産台数（日本自動車工業会 2017）</li> <li>日本自動車耐久品質調査（J. D. パワー）</li> <li>自動車の部品数</li> </ul> |
| 調べる | ② 自動車の生産工程について調べ、工夫や努力についてまとめる。<br><ul style="list-style-type: none"> <li>自動車の生産工程</li> <li>生産の工夫</li> </ul> | <b>知②</b> 自動車の生産過程や自動車産業にたずさわる人々の工夫や努力について各種資料を活用し情報を収集し、読み取っている。<br><br>〈ノート・発言〉 | <ul style="list-style-type: none"> <li>自動車会社HP</li> </ul>  |
|     | ③ よりよい自動車を効率よくつくるための工夫について調  | <b>知①</b> よりよい自動車を効率よくつくるための工夫を理解   | <ul style="list-style-type: none"> <li>自動車会社HP</li> <li>映像資料</li> </ul>  |

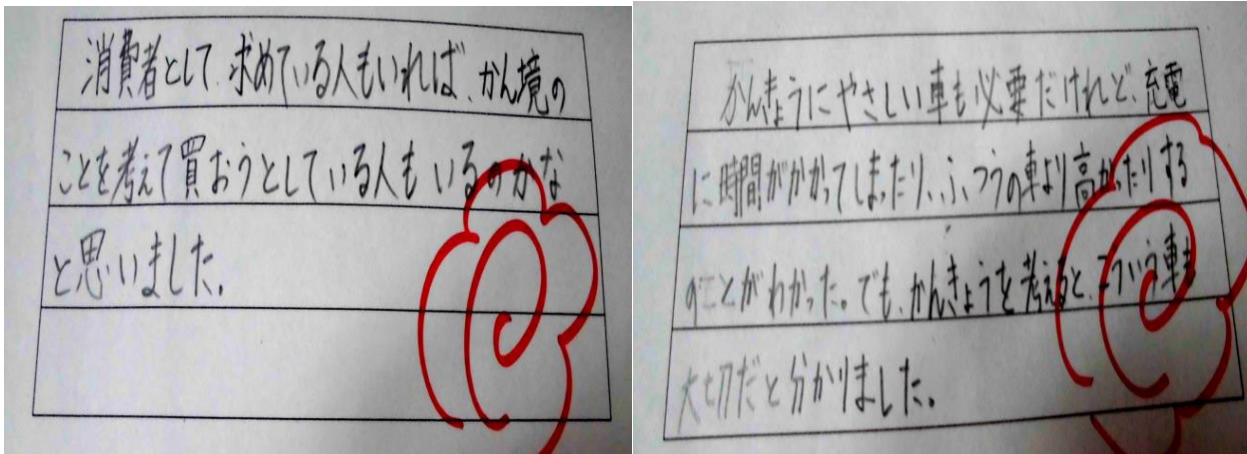
|                  |  |  |  |
|------------------|--|--|--|
|                  | <p>べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ひもスイッチ、アンドン</li> <li>・指示ビラ ・関連工場</li> <li>・部品を余らせない工夫</li> </ul>  | <p>している。〈ノート・発言〉</p>   | <p>(NHK for school)</p>  |
|                  | <p>④ 社会科見学に行き、車づくりにたずさわる人に直接話を聞いたり、資料で学んだことを確かめたりする。</p>   | <p><b>態①</b> 車づくりをしている人の工夫や努力を質問したり、見たり聞いたりしたことをメモに残している。〈観察〉</p>                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自動車工場</li> </ul>   |
|                  | <p>⑤ 自動車の部品がどのようにつくられているのか調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関連工場のはたらき</li> <li>・関連工場の立地</li> </ul>  | <p><b>知①</b> 自動車の各部品がどのようにつくられているか理解している。〈ノート・発言〉</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・関連工場HP</li> <li>・映像資料</li> </ul> <p>(NHK for school)</p> |
|                  | <p>⑥ 完成した自動車がどのように消費者のもとへ届けられるのか調べ、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・トラック輸送</li> <li>・自動車専用船での輸送</li> <li>・現地生産</li> </ul>   | <p><b>知①</b> 完成した自動車がどのように消費者のもとへ届けられるのか、また海外で現地生産が行われていることを理解する。〈ノート・発言〉</p>                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・映像資料</li> </ul> <p>(NHK for school)</p>                  |
|                  | <p>⑦ 人や環境にやさしい車づくりについて調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安全性の高い自動車</li> <li>・福祉車両</li> <li>・環境にやさしい自動車</li> </ul>  | <p><b>知①</b> 人や環境にやさしい自動車づくりについて理解している。〈ノート・発言〉</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書</li> <li>・資料集</li> </ul>                             |
|                  | <p>⑧ なぜ自動車会社は環境のことを考えた自動車をつくらうとするのか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「社会全体」から求められる自動車</li> </ul> <p><b>実践のポイント(1)</b></p>   | <p><b>思①</b> 環境技術は消費者のニーズに必ずしも直結しない部分もあることに気づき、「社会全体」に役立つ製品が必要であることを捉える。〈ワークシート・発言〉</p>            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・燃料電池自動車の説明(環境に良いが、コストや利便性に課題を抱えている。)</li> </ul>          |
| ま<br>と<br>め<br>る | <p>⑨ 社長になったつもりで経営方針を考える。</p> <p><b>実践のポイント(2)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・考えた経営方針について話し合う。</li> </ul> <p><b>学習問題の結論</b></p> <p>自動車工場働く人々は、よりよい自動車をつくるために、組み立て工場と関連工場と連携したり、消費者や社会のニーズに応えたりしながら自動車を作っている。</p> | <p><b>思①</b> 学習をもとに、力を入れた取り組みが明確になっているか。また、その取り組みが生産者、消費者、社会全体にどのように良い影響を与えるか考えている。〈ワークシート・発言〉</p> |  |

#### 4 実践結果と考察

##### (1) 自動車工業について多角的に捉えさせる。

これまで「生産者の工夫」と「消費者のニーズ」について理解をしていたが、「社会に必要とされているものをつくる。」という工業の役割について考えることで、「社会」に求められる自動車も必要であることに気付くことができた。

環境に優しい車が欲しいという消費者のニーズもある部分に触れることがあまりできておらず、短絡的に「環境に優しい車は、社会が求めているから作られている。」と考えてしまう児童も多かった。視野を広げられた児童もいれば、そうでなかった児童もいたように思う。



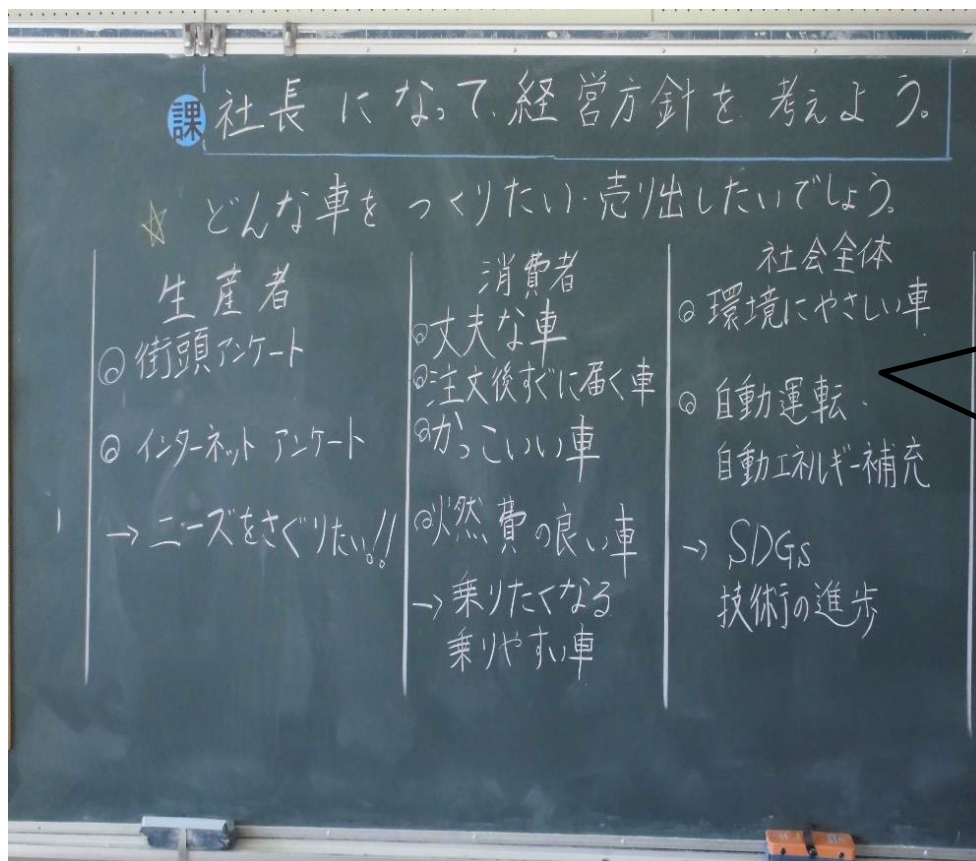
環境に優しい自動車について、「消費者」の視点の他に、「社会に必要とされているか」という視点で考えることができた。

環境に優しい自動車について、課題点を明らかにしながらも、社会に求められており、必要であることが分かった。

##### (2) 自動車工業の発展について自分の考えをまとめさせる。

「生産者」「消費者」「社会全体」の3つの視点から考え、自分はどのような車をつくっていきたいかについて考えさせ、まとめさせた。自分なりに、何が一番力を入れたいかについて考えさせ、正しい、正しくないよりも、自分なりの考えを持ち、表現できることを主軸において活動した。児童がこれまでの学びから、自分の考えを出す良い機会とすることができた。

しかしながら、この3つの視点はどれも大切であるということが大前提にある。自分の意思がメインになり過ぎてしまい、その前提がややおざなりになってしまったように思う。児童の考えも尊重したいが、社会科の学習のまとめと考えると、バランスをとるのが難しく感じた。



社長になりきって考えることで、車の産業について自分事として捉えることができた。

## 5 研究の成果と今後の課題

### 〈成果〉

- ・社会について資料を通して学んだことを生かして、つくりたい車を考えることができた。また、擬似的に社会に通じる機会を設けることで、社会にかかわろうとするきもちが高まった。
- ・学んだことを生活に結びつけるのが苦手な児童も多かったが、学習が生活と密接に関わっていることを理解することができた。

### 〈課題〉

- ・学習を生かして考えることはできても、グループで考える際に、自分の考えを主張することに一生懸命になってしまい、「視野を広げる」ということができている児童がいた。自分との対話はできても、他者との対話の中での深い学びに結びつかない児童も一定数いたため、更なる研究が必要である。